

「阿久比米れんげちゃん研究会」の取組



～れんげを基肥にした特別栽培米「れんげちゃん」は消費者とともに～

久保田重正（知多農林水産事務所農業改良普及課）

【平成27年1月22日掲載】

【要約】

「阿久比米れんげちゃん研究会」では、研究会で作成した「れんげちゃん栽培指針」に沿って生産したコメのみを「れんげちゃん」の名称で販売している。

消費者の求める米づくりをモットーに、阿久比町の消費者団体である「あぐいくらしの会」との交流や各種イベントを通じて消費者の声を聞き、栽培に反映させている。

1 はじめに

「れんげちゃん」はレンゲを基肥とし、本田では化学肥料は使わず、化学合成農薬を慣行より5割以上減らした特別栽培米である（写真1）。「れんげちゃん」は商標登録されており、「阿久比米れんげちゃん研究会」の会員のみが名称を使用できる。



写真1 れんげちゃん（左）とれんげちゃん黒（右）

2 「れんげちゃん」の歩み

「れんげちゃん」の沿革と生産面積及び生産量の推移は以下のとおり（表1、図1）。

表1 「れんげちゃん」の沿革

昭和63年	レンゲを基肥として、化学肥料・化学合成農薬を減らした栽培体系の検討開始
平成3年	除草剤以外の化学合成農薬を本田で使用しない栽培体系の確立 阿久比町の紹介により消費者団体「あぐいくらしの会」との交流開始
平成4年	レンゲ栽培米の名称を公募により「れんげちゃん」に決定
平成5年	「れんげまつり」の開始
平成7年	「阿久比米れんげちゃん研究会」発足。すべてのほ場に生産者名を記した看板を設置（写真2）
平成11年	「れんげちゃん」の商標を取得（商標登録第4321670号）
平成22年	「れんげちゃん」で醸造した日本酒の販売開始
平成25年	除草剤を含め化学合成農薬を使用しない「れんげちゃん黒」（写真1）の販売を開始



図1 れんげちゃん生産面積・生産量の推移



写真2 全ほ場に看板を設置

3 「れんげちゃん」の栽培方針

- ① 化学肥料は使用しない。
- ② レンゲを基肥とし、穂肥には有機質100%の肥料「有機アグレット」を使用する（写真3）。
- ③ 本田では病害虫防除に農薬散布はしない。育苗箱への施薬と1回のみ本田除草剤が使用できる。
- ④ 疎植栽培（50株／坪）を実施するとともに、適切な水管理等を徹底する。
- ⑤ 「安全」、「安心」だけでなく、施肥量を抑えた「おいしい」米づくりに徹する。
- ⑥ 生産履歴を記帳する。



写真3 レンゲのすき込み時期
確認のための巡回

4 販売方法

精米単価の決定は「あぐいぐらしの会」との交流会において決定している。この単価は、直売所等で会員が個人的に販売する場合や、JAのグリーンプラザ・グリーンセンターでも適用されるため、同じ品種ならばどこで買っても同一の価格となっている。

主な販売方法は、「あぐいぐらしの会」、草木農産物直売所（直売所を窓口にて年間予約を受け付け）、JAのグリーンプラザ・グリーンセンター、各農産物直売所、その他に個別宅配も行っている。

5 消費者との交流

町主催の阿久比町農業まつりや、「あぐいぐらしの会」との懇談会などの消費者交流を、積極的に実施している。

阿久比町農業まつりでは、「れんげちゃん」で握ったおにぎりの配布、田植え体験、くじ引き等を実施している。また、まつりでの田植え体験者を対象に、稲刈り体験も行っている。

毎年8月に開催する「あぐいぐらしの会」との懇談会は、価格決定だけでなく意見交換によって顧客ニーズを把握する場となっている。

各種イベントへも積極的に参加し、消費者との交流を図るとともに「れんげちゃん」ブランドの知名度の向上に努めている。

6 今後の課題

化学合成農薬を使用しない「れんげちゃん黒」の増産に対する要望が大きいため、生産する会員・面積を拡大する必要がある。また、現在は会員それぞれが販売しているが、販売に要するコストや時間を節減するため、販売方法の見直しも検討する必要がある。